

令和7年度 看護部目標

「変化に適応しながら、創造力豊かに、ともに成長し合える看護部組織」

これからの日本は、2040年にむけて人口減少や少子高齢化がピークを迎え、社会だけでなく人々の生活のあり方が変化していきます。そのため、社会のニーズに対応し変化に適応できる地域づくりが求められています。

社会の様々な変化に柔軟に適応していくためには、看護師一人ひとりが主体的に、かつ継続して学ぶ姿勢を持ち、人を育てていくことで、長く働き続けられる看護部組織を創ることが求められます。また、自らの学びや成長を看護という形に代えて、組織に貢献していくことも必要です。

高齢化が進む地域において、患者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるように、治療と生活の両面から患者のその人らしさを支えるために、入院と外来、そして地域と連携し、医療・看護の提供とともに、患者の思いをつなぐ「看護のちから」が大切です。

これからは、創造力を発揮し、一人ひとりの看護のちからを合わせて、ともに安心して安全な看護を実践していくことが、私たちの目標です。

具体的な取り組みは、

1. 看護提供体制の定着を図る
安全で質の高い看護ケアが提供できる体制
2. 入退院支援体制の強化
PFMの強化を図る
適切な入院期間の中で必要な看護ケアが提供できる
地域との連携を強化し、円滑なケア移行を実践する
3. 外来看護体制の充実
複数の疾患を持つ患者の療養支援・生活支援ができる